

# 相模原から 日本を変える! 相模原市長選挙特別委員会

# 【号外】小田急多摩線延伸特集

5月28日、相模原市と町田市は、「小田急多摩線延伸に関する関係者会議」の報告書を公表しました。

これは、平成28年の国土交通省交通政策審議会答申において、小田急多摩線延伸が「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿を実現する上で意義のあるプロジェクト」と評価された一方、収支採算性などの課題を指摘されたことを受け、上記関係者会議が設置され、平成28年8月～平成31年3月にかけて議論してきたものまとめたものです。

この報告では、唐木田～相模原の約5.8kmをまず整備する「段階的整備案」ならば、懸案である収支採算性の面をクリアできる可能性があるという調査結果が示されました。

しかし、「念願である上溝やその先の延伸を実現させねばいけない」というもとむら市長にインタビューを行いました。



**小田急多摩線延伸を全力で前に進める。  
もとむら賢太郎市長に強い決意と事業の現状を伺いました。**

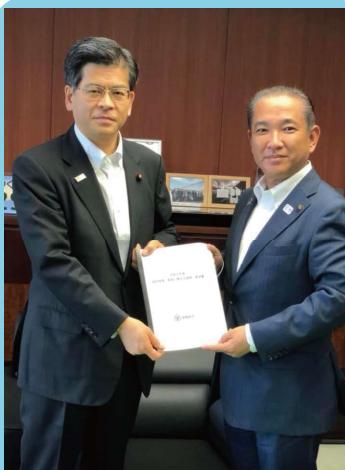
その調査内容は、需要の創出につながる利便性の向上策など収支採算性の確保に向けた検討「小田急線複々線化に伴う新ダイヤへの更新、開業想定年次の見直しなどを行い、需要予測、収支採算性及び費用便益分析の検討」「延伸の意義と効果について検証」する」とでした。

【もとむら市長（以下、もとむら）】五月二十八日に公表した調査報告書には、学識経験者や小田急電鉄、国、関係自治体など関係機関で構成する関係者会議で調査した内容を取りまとめたものであります。調査内容は、「諸

億と概算される大事業ですから、資金調達のため、同事業の活用は欠かせません。ところが、計画では、唐木田上溝までの償還年数が四十五年となつており、事業のスケジュールに立つことも難しいといふ状況にありました。ちなみに、これらのは試算は、平成二十八年八月に策定された「相模原市広域交流拠点整備計画」にあるまちづくりのイメージに基づいて行われています。



り、事業を進めるにあたり、最大の課題はやはり「收支採算性」です。本市としても赤字路線にするわけにはいきませんし、実際の運営にあたる小田急電鉄さんにとっても当然そうです。そして、繰り返しですが、この点が改善されなければ、そもそも国の認可がおりず、事



石井国土交通大臣に要望書を手渡す  
もとむら市長。衆議院国土交通委員会  
務めていたため、親交があるそうです。

## 小田急多摩線延伸 による主な効果

○JR横浜線やJR相模線との鉄道ネットワークの強化により、通勤通学等の時間短縮や混雑緩和が図られるなど利便性の向上が図られます。

付属性の向上が図られます。相模原駅周辺は、多様な機能の集積により、相模原市の表玄関にふさわしい土地利用が図られるとともに、中心市街地として魅力と活力あるまちづくりを推進することができます。また、JR相模線や新線の沿線土地利用の活性化も期待されます。

化が期待できます。  
○東京都と神奈川県を結ぶ首都圏南部の交通軸のさらなる構築により、広域交流拠点都市の形成に大きく寄与します。

○駅を中心とした公共交通ネットワークを形成することで、過度に自動車に依存せず、誰もが安心して移動でき

依存せり、誰もが安心して移動でき、環境にもやさしいまちづくりが図られます。

(相模原市小一ムベースより)

トだということでしょう  
か?  
【もどむら】そうです。国  
からも意味がある事業  
だと太鼓判を押してもら  
つた、ではどう前に進め  
ようというのはやはり當  
事者の仕事になってきま  
す。  
国交省には様々な事例  
の蓄積がありますから、  
アドバイスをいたぐるこ  
とはできますが、あくま  
で事業を進めるのは今回  
の関係者会議に参加した  
ような関係自治体等に  
なります。  
一そこで、今回の関係者  
会議なのですね。  
【もどむら】はい。先ほど  
も申し上げたとおり、答  
申でも収支採算性が課  
題として指摘されていま  
した。  
これはまちづくりと  
合わせて考えなければ  
ならない話です。他方、  
小田急多摩線延伸の実  
現はまちづくりにどう  
て重要かつ不可欠な要  
素で、必ず実現させたい  
事業です。そこで、前市

【もともう】そうしたご心配の声は、私のところにも届いています。小田急多摩線の延伸がすぐにでも実現するかのようないいイメージや、相模総合補給廠一部返還地の開発イメージ図のように、何も決まっていないのに、あたかもすべて決まっています。

小田急多摩線延伸で活用する予定の「都市鉄道利便増進事業」の概要。資金調達のために必要だが、当初の計画どおりの収支採算性では、基準を満たさない。

長の時代に、收支採算性を改めて検討してきた結果を先日五月二十八日に公表させていただいたところです。そうしたところ、まず先に唐木田駅～相模原駅までの延伸を行い、相模原駅～上溝駅までを後で整備する「段階的整備案」であれば、第一期整備区間（唐木田～相模原）の収支採算性は、二十六年で償還可能という試算が出来ました。この案ならば「三十年」という八ドルをクリアできると、いう内容です。

# 小田急多摩線延伸は、 相模原のまちづくりのために必要不可欠

【もどむら】もちろんです。本市について、小田急多摩線延伸は悲願です。相模総合補給廠の一部返還地の活用にどうでも、きわめて重要な位置づけとなります。そのため、石井前国土交通大臣にも、市長就任して間もない六月二十日に直接要望に伺つて参りました。前大臣は、補給廠にも足を運んでいただいており、熱意をよくご存知でしたが、やはり課題があることも承知されていました。また、赤羽新大臣にも要望に行きました。赤羽新大臣にも要望に行きたいと思っております。これからも全線の延伸実現に向けて、力を尽くしてまいります。

るかのよ、誤解を招くこれまでの公表の仕方やあり方にについては見直す必要があるのかもしれません。上溝や田名地区をはじめ、延伸を望む皆様の熱意はよく存じ上げていいます。仮に段階的整備案を選ぶこととなつたとしても、それは上溝までの延伸を諦めたということではありません。むしろ、上溝までを含めて、全線整備の実現を前に進めるための選択になると考えていいます。

「小田急多摩線延伸に関する関係者会議調査のまとめ」は、下記URLまたは右QRコードからご確認いただけます。

[http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_001/016/505/0528/0528\\_02.pdf](http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_001/016/505/0528/0528_02.pdf)

[相模原市ホームページ](#) > [市政情報](#) > [広報](#) > [市発表資料](#) > [発表資料 令和元年5月分](#)



### 主な経緯

- ◇昭和60年 運輸政策審議会答申で「今後、新設を検討すべき方向」に位置づけ
  - ◇平成12年 同答申で「今後、整備について検討すべき路線(B路線)」に位置づけ
  - ◇平成14年 小田急多摩線延伸促進協議会設立
  - ◇平成18年 相模総合補給廠の一部返還基本合意を契機に、町田市と共同で具体的な検討を実施。小田急多摩線延伸検討会が設置され、平成26年5月に覚書を取り交わす
  - ◇平成21年 小田急多摩線の延伸促進に関する連絡会設立(上溝～愛川・厚木方面)
  - ◇平成26年 相模総合補給廠一部返還
  - ◇平成28年4月 交通政策審議会答申で「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿を実現する上で意義のあるプロジェクト」として位置づけられる
  - ◇平成28年8月 答申を受け、関係者会議設置
  - ◇令和元年5月 関係者会議調査報告書を公表

**もとむら賢太郎SNS更新中！**

※相模原から日本を変える会は、  
もとむら賢太郎市長を応援しています。



【はしおに堅士郎氏プロフィール】

- 1970年4月17日生まれ
  - 相模台幼稚園・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒
  - 藤井裕久衆議院議員秘書を経て、(株)東鉄工業勤務
  - 神奈川県議会議員2期、衆議院議員3期を務める
  - 平成31年4月22日より相模原市長
  - 妻・一人娘と南区在住
  - 座右の銘:

